



## すなおでかしい自己の確立において！

新聞記事を元に本を一冊紹介します。お笑いジャーナリストや時事YouTuberとして活躍されている たかまつ なな さんという方が、司馬遼太郎さんの「二十一世紀に生きる君たちへ」という本をとりあげていました（毎日新聞 2022/8/6 朝刊）。

お笑い芸人になることに両親から猛反対され、またお笑いでも結果もなかなか出せないとき、たかまつさんはこの本に出会います。司馬さんは「私には、幸い、この世にたくさんのすばらしい友人がいる。歴史の中にもいる。私の日常を、はげましたり、なぐさめたりしてくれているのである。だから、私は、少なくとも二千年以上の時間の中を生きているようなものだと思っている。」とつぶやきます。ここにたかまつさんは衝撃をうけます。歴史の中に友達!?

『女性なのに生意気だ』という批判に、女性の参政権の獲得に大きく貢献した市川房江はどう励ましてくれるだろうか。『夢がでかすぎる』という揶揄(やゆ) (からかい) に対して、天下統一を夢見た織田信長は何というだろうか。視野が一気に広がった。歴史を知ることによって友達が増え、その友達を知ることによって自分の悩みがちっぽけに見えてきた。勉強する意味も分かった気がする。」とたかまつさん。

司馬さんはこれを 1989 年、小学6年生の教科書向けに書きました。「歴史小説家として、歴史から学んだことを伝えたい！」と。もう少し、かいつまんで紹介します。

「昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこに空気と水、それに土などという自然があって、人間や他の動植物、さらには微生物にいたるまでが、それに依存しつつ生きているということである。」

「人間は自然によって生かされてきた。歴史の中の人々は自然をおそれ、その力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身をつつしんできた。この態度は、近代や現代に入って少しゆらいだ。人間こそ、いちばんえらい存在だという、思い上がった考えが頭をもたげた。二十世紀という現代は、ある意味では、自然へのおそれがうすくなった時代といっている。」

「同時に、人間は決しておろかではない。思いあがるということとはおよそ逆のことも、あわせ考えた。つまり、私ども人間とは自然の一部にすぎない、というすなおな考えである。」

「このことは、古代の賢者も考えたし、また十九世紀の医学もそのように考えた。ある意味では、平凡な事実にすぎないこのことを、二十世紀の科学は、科学の事実として、人々の前にくりひろげてみせた。おそらく、自然に対していばかりかえていた時代は、二十一世紀に近づくとつれて、終わっていくにちがいない。この自然へのすなおな態度こそ、二十一世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。そういうすなおさを君たちが持ち、その気分を広めてほしいのである。」

「そうなれば、二十一世紀の人間は、よりいっそう自然を尊敬することになるだろう。そし

て、自然の一部である人間どうしについても、前世紀にもまして尊敬しあうようになるにちがいない。そのようになることが、君たちへの私の期待でもある。」

「さて。君たち自身のことである。君たちは、いつの時代もそうであったように、自己を確立せねばならない — 自分に厳しく、相手にはやさしく。という自己を。そしてすなおでかしこい自己を。」

「自己といっても、自己中心におちいってはならない。人間は助け合って生きているのである。人間は社会をつかって生きている。原始時代の社会は小さかった。それがしだいに大きくなり、今は、国家と世界という社会をつくり、たがいに助け合いながら生きているのである。自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくりだされていない。」

「このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳となっている。助け合うという気持ちや行動のもとのものは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることも言ってもいい。やさしさと言いかえてもいい。この三つの言葉はもともと一つの根から出ているのである。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのである。」

「その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。この根っこの感情が、自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちも出てくる。」

「君たちさえ、そういう自己をつかっていけば、二十一世紀は人類が仲よしで暮らせる時代になるのにちがいない。」

かなり駆け足で紹介しましたが、司馬さんからのメッセージ、みんなにも届いたでしょうか。2学期、さまざまな行事のなかで、そして日々の日常の中で、「すなおでかしこい自己」を確立できるよう頑張ってください。

## 濃厚接触の期間が短縮されます

第7波が高止まりの中、感染予防を徹底しつつ学校教育活動を継続していますが、このたび国や府の通知をもとに市でも濃厚接触の自宅待機期間が5日間に短縮されました。陽性者の待機期間については10日間と現時点では変更ありません。

## 今後の主な予定

8/29(月) 3年実力テスト

1・2年課題テスト

9/1~2(木~金) 2年宿泊学習

9/5(月) 各種委員会

9/6(火) 3年チャレンジテスト

9/8~9(木~金) 1年宿泊学習

9/14~16(水~金) 3年修学旅行

9/21(水) 全学年研究授業

9/22(木) キャリア教育講演会

9/26~27(月~火) 学校公開

9/26(月) 3年合唱コンクール

9/27(火) 3年進路説明会

10/3(月) 情報モラル教室

10/6(木) 創立記念日(通常登校日)

10/7(金) 中間テスト・後期生徒会役員選挙  
団結式(学校祭文化の部)

